

責任者 コーディネーター	全学教育推進機構長 田島克巳教授 医学教育学講座地域医療学分野 伊藤智範教授 教養教育センター人間科学科心理学・行動科学分野 相澤文恵教授				
担当講座	医学教育学講座地域医療学分野、教養教育センター人間科学科心理学・行動科学分野 (医学部)内科学講座消化器内科消化管分野、消化器内科肝臓分野、糖尿病・代謝・内分泌内科分野、循環器内科学分野、呼吸器内科学分野、血液腫瘍内科学分野、神経内科・老年科分野、外科学講座、脳神経外科学講座、心臓血管外科学講座、呼吸器外科学講座、整形外科科学講座、形成外科学講座、産婦人科学講座、小児科学講座、耳鼻咽喉科学講座、眼科学講座、皮膚科学講座、神経精神科学講座、放射線医学講座、麻酔学講座、臨床検査医学講座、救急・災害・総合医学講座救急医学分野、総合診療医学分野、病理診断学講座 (歯学部) 歯科保存学講座う蝕治療学分野、歯科保存学講座歯周療法学分野、補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野、口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野、口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野、口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野、口腔保健育成学講座歯科矯正学分野、口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野、口腔医学講座予防歯科学分野、口腔医学講座関連医学分野 (薬学部) 薬科学講座創薬有機化学分野、薬科学講座構造生物薬学分野、薬科学講座分析化学分野、生物薬学講座機能生化学分野、生物薬学講座生体防御学分野、病態薬理学講座臨床医化学分野、病態薬理学講座薬剤治療学分野、医療薬科学講座創剤学分野、医療薬科学講座薬物代謝動態学分野、医療薬科学講座衛生化学分野、臨床薬学講座臨床薬剤学分野、臨床薬学講座情報薬科学分野、臨床薬学講座地域医療薬学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野 (看護学部) 共通基盤看護学講座、地域包括ケア講座、成育看護学講座、看護専門基礎講座				
担当教員	伊藤智範教授、相澤文恵教授、(医学部) 赤坂理三郎講師、宮坂昭生准教授、佐藤まりの任期付助教、肥田頼彦助教、千葉真士助教、佐々木了政助教、鈴木真紗子助教、馬場誠朗助教、小笠原靖助教、坪井潤一助教、出口博之准教授、及川諒介任期付助教、本多孝之特任准教授、尾上洋樹助教、外館玄一朗助教、阿部俊彦助教、田中三知子講師、渡辺彩乃助教、兼平貢講師、三田俊成助教、及川博文特任講師、大畑光彦准教授、七崎之利助教、大間々真一講師、山田哲也助教、柳川直樹准教授 (歯学部) 千田弥栄子助教、菅徹也助教、村井治助教、滝沢尚希助教、田邊憲昌准教授、畠山航講師、深澤翔太講師、山田浩之教授、古城慎太郎助教、小松祐子助教、佐藤健一教授、四戸豊講師、佐藤仁助教、佐藤和朗教授、桑島幸紀講師、氏家隼人助教、岸光男教授、千葉俊美教授 (薬学部) 稲垣祥助教、阪本泰光准教授、藤本康之准教授、牛島弘雅助教、中西真弓教授、關谷瑞樹助教、大橋綾子教授、白石博久特任教授、那谷耕司教授、大橋一品准教授、高橋巖助教、三部篤教授、手塚優助教、松尾泰佑助教、小澤正吾教授、幅野涉准教授、杉山晶規教授、工藤賢三教授、朝賀純一准教授、高橋宏彰助教、西谷直之教授、佐京智子助教、氏家悠貴助教、高橋寛教授、松浦誠特任教授、奈良場博昭教授 (看護学部) 三浦幸枝教授、菖蒲澤幸子教授、柏木ゆきえ特任准教授、小松恵特任准教授、佐藤奈美枝特任准教授、武田邦子講師、小林由美子講師、伊藤奈央講師、小坂未来講師、遠藤太教授、野里同准教授、熊地美枝准教授、大澤扶佐子准教授、岩淵光子特任准教授、高崎邦子講師、館向真紀特任講師、藤原弥生助教、松岡真紀子助教、藤澤純子助教、高橋亮教授、蛸崎奈津子教授、遊田由希子特任准教授、最上玲子講師、西里真澄講師、高橋淳美助教、伊藤由香助教、山本洋子助教、遠藤龍人教授、塚本恭正准教授、一ノ渡学講師				
対象学年	6 (医歯薬) 4 (看護)	期 間	前期	区分・時間数	演習 7.5 時間

■ 学習方針 (講義概要等)

専門職連携教育(Interprofessional Education)の一環として、修得した医学・歯学・薬学・看護学の専門知識と経験をもとに、患者と家族の福利を最優先する倫理観に基づいて、病院内での治療と地域社会での生活支援を最適に進めるために医療系専門職がどのように貢献できるかを、Paper Patient で多角的に検討する。

■ 教育成果 (アウトカム)

患者中心の医療を実践するために、「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族・医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築するため、患者福利を第一とし複数の学部学生が自己の専門的知識をもとに協議するなかで、病者に対する多角的な視点を学び、自らの職種役割の再認識と他職種尊重の姿勢を身につける。また、患者と家族、あるいは職種間での適切なコミュニケーションを行動科学的知識をもとに実践することで、コミュニケーションスキルが向上する。医 DP 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 歯 DP 2, 3, 4 薬 DP 2, 3, 5, 6 看 DP 2, 3, 4, 7

■ 到達目標 (SB0s)

1. 医療人として患者個人の尊厳・福利を第一とする生命倫理に基づき、科学的思考に基づいた治療計画を説明できる。
2. チームの中で協力して、課題から問題点を抽出し、解決策を提示することができる。
3. 同級生や他学部の学生とで行う模擬カンファレンスにおいて、担当患者の要約を報告できる。
4. 同級生や他学部の学生とで構成されたチーム間で情報の共有や説明、伝達ができる。
5. 患者や家族と一緒に病の克服に向けた活動をするための、インフォームド consent や生活指導を試みる。

■ 成績評価方法

ルーブリックでチーム作業評価 (60%) し、他発表会評価 (20%)、成果物評価 (20%) により評価する。
欠席者については別途課題を指示指定するものとする。

■ 事前学修時間・内容

指定された症例の事前課題について、各学部の専門分野に基づき教科書や参考書等を利用して調べ、**学部内で討議し治療方針の根拠や注意点について他学部に説明できるよう準備すること。同作業には、およそ8時間以上を要する。**

■ 特記事項・その他

開催日：令和3年4月17日(土) 1限～5限 会場：矢巾キャンパス
※新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、Zoom等を使用した非対面式で実施する。(実施方法等は別途指示)